

学番	44	県立新潟県立工業高等学校
----	----	--------------

令和4年度

学校自己評価表（報告）

学校運営実施計画							
学校運営方針	教育目標『知性・情熱・創造』のもと、豊かな教養と探究心、確かな技術・技能を身に付け、将来の工業のスペシャリストとして心身ともに健康で、たくましい人間を育成する。						
社会的役割等 スクールミッション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県央地域唯一の工業高校として、知性・情熱・創造の理念のもとに、探究心、豊かな心、思いやりの心を持った生きる力を育成する。 ・ 工業のものづくりやキャリア教育をとおして、広く、深い知識や技能・技術力を身に付け、地域で活躍・貢献するテクノロジストを育成する。 ・ 県央地域の技術力・魅力を知り、地域に対する愛着と理解を深め、地域社会の発展に貢献する。 						
昨年度の課題と成果	年度の重点目標	具体的目標					
<p>○成果 新型コロナウイルス感染症の対策を行う中、実施できることは工夫して行うことができた。また、ICTを活用した教育活動を積極的に行うことができた。</p> <p>○課題 キャリア教育の一層の充実を図り、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、インターンシップや現場実習を実施する。</p>	1 工業教育に興味・関心を持たせるとともに、ICTを活用し確かな学力の定着を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した授業の実践するため、研修等の実施し実践力の向上に努める。 ・ 意欲を高める授業の工夫、家庭学習習慣の確立を行う。 					
	2 基本的な生活習慣の確立と、県立生としての自覚と誇りをもった、規範意識の高い生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止対策委員会を中心とした組織的な取組を行う。 ・ 頭髪・服装指導や元気な挨拶を行う。 ・ 携帯電話、スマートフォンの使用について、指導を徹底する。 					
	3 生徒一人一人を伸ばす教育を実践し希望や適性に応じた進路実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動全体を通じたキャリア教育の推進と地域と連携しテクノロジストの育成を図る。 ・ 早期確立、大学進学者への補習体制等を確立する。 ・ 現場実習、インターンシップ、デュアルシステムの充実を行う。 					
	4 教育目標の達成のため職員の連携・情報共有を図り、組織的に取り組む体制づくりを行う。また、工業のものづくりや部活動、ボランティア活動等を通じて地域に開かれた学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革から効率化を図り、長時間勤務（月80時間）ゼロをめざす。 ・ 工場の祭典、燕三条のものづくりメッセ等への生徒参加を推進し、地域活性化を図る。 ・ 学校ホームページを充実させ学校のPRにつなげ、教育活動の活性化を図る。 					
重点目標	具体的目標	担当	具体的方策			評価	
特色ある教育	学習意欲の醸成 学力の向上	教務部 各教科	授業規律を確保するとともに、生徒が意欲を高められるようICTを活用した授業に努める。			A	A
			言語活動を充実させるとともに、生徒の能動的な学習活動の充実を図る。			B	
			課題・レポートなどを課し、家庭学習習慣を確立する。			A	
			小テスト・週末課題・長期休業中の課題などにより、繰り返し学習習慣の定着を図る。			A	
			教員相互の授業公開と授業見学及び授業参観の積極的な実施を行う。			B	
	資格取得の啓発	国語科	週1回の漢字テストの実施、20点満点で15点以上70%以上を目指す。			A	B
			数学科	年2回の数学検定を実施し、合格率70%以上を目指す。			
		検定前に補習や模擬試験・個別指導を実施する。			B		
		英語科	年3回の英検を実施し3級合格率70%以上を目指す。			B	
			検定前に補習や模擬試験・個別指導を実施する。			A	
		機械加工科 電子機械科 情報電子科	計算技術検定を実施、3級合格率50%以上を目標とする。			B	
	情報技術検定を実施、3級合格率50%以上を目標とする。			B			
	工業教育の 興味・関心と創造力	建設工学科	基礎製図検定を実施、合格率50%以上を目標とする。			B	
			2級施工管理技士試験で80%以上の合格率を目指す。			A	
		試験前に補習や模擬試験・個別指導を実施する。			A		
	工業科	資格取得や大会参加などにより、ジュニアマイスター顕彰認定者3名以上を目標とする。			B		
機械加工科 電子機械科 情報電子科		資格取得や工業系の各種大会に参加するよう奨励する。各学年で工場見学を実施する。			A		
		各コースで現場見学を年2回以上実施する。			A		
工業科			県ロボット競技大会に向けて委員会を立ち上げ準備する。	A			
職業観、勤労観 の育成	工業科	工業技術の知識や技術を深めるため、外部講師を依頼し、最先端技術を学ぶ講演会を実施する。			A	A	
		機械加工科 電子機械科 情報電子科	現場実習を通して地域の産業を理解し、郷土愛を育て職業観・勤労感を身につけさせる。				A
	就業体験委員会		工業全科によるデュアルシステム10人と建設工学科2年全員によるインターンシップを実施し、勤労観や進路意識の啓発を図る。				A

生徒指導	指導上の課題の明確化と共通認識	生徒指導部	服装、髪形、バッジ等の検査及び指導を年8回以上行う。	A	A	
	指導方針の一貫性確保		問題行動を起こす生徒、件数を昨年より減らす。	B		
			教師間での指導基準の共通理解を図る。	B		
	個別指導の重視（家庭との連絡を密にした指導の徹底）		問題行動に関する家庭訪問は担任1回以上、生徒指導部2回以上を実施し保護者と連携を密にする。	A		
			保護者に各学期1回以上の交通指導、生活指導の啓発を行う。	A		
	集団規律の確保		月1回以上の生活習慣の指導を行う。	A		
			バイク実技講習会やバイク・自転車の通学指導を年5回実施する。	A		
	いじめの予防と早期発見・早期指導		いじめ防止対策委員会	いじめアンケートを5月・9月・2月に実施する。		A
				定例職員会議での情報交換や共有を行う。		A
				教育相談週間を年3回行う。		A
基本的生活習慣の定着	家庭科	食育推進のために食育講話を年8回実施する。	B			
		全学年	全校朝会を活用した生徒指導を実施する。	A		
	遅刻、欠席等の連絡徹底をさせる。		A			
	挨拶の励行を指導する。		A			
	来校者への挨拶、入退室マナーの励行を毎日指導する。		A			
	清掃の励行、身の回りの整理整頓を毎日指導する。	B				
時間厳守を徹底する。	A					
進路指導	進路意識向上に向けたキャリア教育	進路指導部	外部講師による進路意識講演会・学習習慣支援講演会・進路ガイダンスを実施する。	A		
			職業適性検査・レディネステストによる意識付けをする。	A		
	進路の手引きの発行により進路決定までの取り組みや受験までの流れなどを周知する。		B			
	個々の生徒に対する進路希望の実現		外部講師による面接指導・希望する進路情報の提供・就職ガイダンスへの参加指導などを実施する。	A		
企業やハローワークとの情報交換を密に行い、生徒や保護者にその情報を公開する。		A				
4年制大学希望者の集中補習を実施する。	B					
特別活動及び部活動	生徒の主体的行動力の育成	生徒会指導部	体育祭での主体的な運営や参加を図る。	A		
			競技大会での主体的な運営や参加を図る。	A		
			県央工祭での主体的な運営や参加を図る。	A		
	部活動の活性化	部活動全体の活性化を図る。	A			
	図書・視聴覚教育の充実	図書部教務部	図書視聴覚環境の整備を図る。	A		
			生徒個人及び授業での図書館利用の促進を図る。	B		
図書貸し出し冊数の増加促進を図る。			B			
インターネットの利用環境の更新を図る。	A					
蔵書のデータベース化を維持・管理を図る。	A					
健康管理安全指導	生徒や保護者に対する学校保健の啓発	保健・環境部	全校及び学年を対象に保健指導を実施する。	A		
			保健室だよりを学期に1, 2回発行するとともに、健康診断の統計結果をまとめる。	A		
			保健情報の掲示物を随時作成し掲示する。	A		
			心に問題を抱えている生徒及び保護者との相談やカウンセリングに協力する。	A		
	学習環境の整備	感染症対策に留意し清潔な環境を整える。	B			
各清掃場所の清掃用具の管理を徹底する。	B					
防災訓練の計画・実施	4月に総合防災計画及び消防計画の見直しを行う。	B				
	避難訓練を年に1回実施する。	A				
地域との連携	地域や関係機関との連携・協力	生徒指導部	中学校や警察との情報交換等を年3回積極的に行う。	A		
		学校評価委員会	学校評議員会、地域の声を聞く会等を通して、学校の情報を積極的に開示する。	B		
		就業体験等委員会	デュアルシステム、インターンシップを通じた、地域企業との一層の連携促進を図る。	A		
		教務部各教科	教育活動の様子を積極的にホームページに掲載する。	B		
		生徒会部活動	地域行事への参加、ボランティア活動などを通して地域社会への貢献を図る。	B		
成果	・教員用タブレット端末、WiFiアクセスポイントの追加整備を行うとともに、各種研修会を設け、タブレット端末を活用できる教員が85.4%となり、ICTを活用した授業を増やすことができた。 ・デュアルシステムに10人、インターンシップに39人、現場実習に94人が参加し、デュアルシステム発表会では、協力企業から指導助言を受けることができた。			総合評価		
				A		